

# 被災地に

# 緑の支援を

を始めた。花の時期を迎えた岡山や九州地方のオープンガーデンで既に賛同の取り組みがスタート、道内でも間もなく専用ロゴマーク入り募金箱が登場する見通しだ。

(編集委員 永山 済)

東日本大震災の被災地支援に花と緑の愛好者たちも動きだした。津波で失われた樹木の再生、花の道づくりなどを目的に、道内外の女性3人が任意団体「3.11ガーデンチャリティ」を設立、募金活動

## ガーデニング愛好家が募金呼び掛け

同団体は、ガーデニング雑誌の章分け「BISEES(ビス)」編集長の八木波奈子さん(東京)小樽市出身)、兵庫県立淡路夢舞台温室「奇跡の星の植物館」プロデューサーで環境プランナーの辻本智子さん(兵庫県淡路市)と、オープンガーデン普及に取り組む道

## 樹木再生 ■ 子どもの心ケア ■ 花の道づくり

内の市民団体「ブレインズ」代表、内倉真裕美さん(恵庭市)が設立。ガーデニングを通じ交流のある3人が「何か行動を」と一致した。寄せられた善意は①原風景の復旧のため、消失した樹木に代わる現地に適した樹種を贈る②被災地の子どもの心ケアのため、



専用ロゴマーク入りの募金箱などを手にするブレインズの内倉代表

明るいガーデンに招待する  
③被災地の道ばたに花を咲かせ、花の道をつくるーに充てる。被災地の情報や、阪神淡路大震災の経験を踏まえまとめたという。

間限定)と運営説明書を事務局から送り、ロゴマーク入りの募金箱をオープンガーデンなどに置いて協力を呼び掛けてもらっている。

族を独自に同植物館に招待しており「淡路も震災被災地。そこが復興している姿に東北の被災者が勇気を得たと話してくれました。東北のためにも、淡路の地域振興にも力を入れたい」と話す。

内倉さんは全国に知られる恵庭市恵み野のガーデニ

「オープンガーデンは英国発祥で、本来がチャリティー活動。個人が庭を公開、来訪者に楽しんでもらい善意を募る社会貢献です。その精神が根付いていってほしい」と内倉さん。「息長く続けることが、花と緑に携わっている私たちの責任でもあると思います。日本でもオープンガーデンがチャリティーになるとき。社会のためになり、緑を増やすことにつながります」と期待を込める。

でも知られる。創刊から編集長を務める八木さんは、「ほかの募金活動に比べ規模は小さいかもしれませんが、息の長い活動にし、最低でも3年は続けたい。手応えを感じており、花、緑の力を信じています」と話す。同誌5月号で取り組みを紹介、参加を呼び掛けている。活動報告を誌上(隔月刊)で行うという。

辻本さんは、阪神淡路大震災の際の復興ボランティア「ガレキに花を咲かせましょう」運動を支えた経験もあり「現地の情報をきちんとふまえ、まちづくりにもつながる活動に」という。関西に避難している被災家

問い合わせは内倉さん ☎ 0123・36・4549、電子メール 3.11gc.u@gmail.comへ。募金の振込口座は三菱東京UFJ銀行麴町支店(普) 0087374、名義は「3.11ガーデンチャリティ」。